

編集後記

ここ数年、外国の方らしい若者がちらほら目に付くようになってきた。

いや、若者だけでなく、街の中でも外国の方が働いていたり、歩いているのを見かける機会が多くなった。彼らはどこから来て、どこに住んで、どのような生活をしているのだろうか・・・？と自然に疑問が湧いて来た。

新聞を見れば毎日のように、労働力不足、技能実習生、特定技能一級・二級など、聞きなれない言葉が飛び交っている。

大昔、田川は農耕で生計を立てていた寒村。それが明治の石炭発見以来、周辺からどんどん人々が住み着くようになり、昭和の中期には韓国を含め多くのアジアの方々の力も借りて炭鉱が栄え、栄華を極めた。

その面影も消えうせた今、失業対策事業で造成した工業団地で誘致企業が事業を展開している。

そこで働く方がいないという現実の頼みの綱は外国人労働者なのかなあ～と思わないでもない。

しかし私たちは彼らを単なる労働者としてみてはいないだろうか、と案じている。田川を、日本を支えてくれている同朋として、もっと彼らの実態を知り、困ったことがあれば相談に乗るくらいの対応は必要ではないのかと考える。

一民間ボランティア団体が単独で取り組んだこの実態調査がそのような一助となることを祈る。

最後に協力をいただいた、企業、団体、そして田川においでいただいている外国のみなさまに感謝申し上げます。

みな様方の田川への期待の大きさを感じ取ることができ、大変心強いとともに、それにこたえる必要を強く認識した次第。ほんとうにありがとうございました。

調査員 共に歩む会 田淵義文 植木康太 ほか会員一同
協力 福岡県立大学 堤先生をはじめ多くの先生方
学生さん 重野朝香様 ほか
中国 南京師範大学、吉林大学珠海学院
韓国 韓国大邱韓医大学校、ソウル三育大学、
からの留学生のみなさま

調査責任者 植木康太